

きんぎょ人形まつり

第 7 号
平成 15 年 1 月 行
編 集 発 人 会
福 島 県 人 会
北 海 道 連 合 会

新年のごあいさつ

会長 上田 小八重



新年、おめでとつございます。
ことしもまた県人会の皆さまとともに、新年を迎えましたこと、喜びに存じます。

昨年は、十市十三町一村で行われた「第十五回全国健康福祉祭ふくしま大会（うつくしまねんりんびつく二〇〇二）」が大盛況で、「ほんとうの空」が全国にひろがりました。

きめ細かな県政のひとつ「うつくしまふくしま県民運動」がはじまって十一年目、第二期に入つて、着実に広がっています。このような官民一体こそ血のつながった政治といえるものではないでしょうか。この力強い母県を誇りに思います。

十一月二十二日は、北海道事務所開設五十周年を迎え、歴代所長さんたちが十名も来札、祝盃をあげました。いつまでも北海道を忘れない歴代の職員の方々に深い感謝を覚えます。

地域では、駅前再開発のなった帯広市で、佐藤知事を迎えての福島県人会北海道連合会総会を開催したほか、札幌県人会では設立八十五周年記念行事が行われました。

函館では、市制八十周年を記念して、須賀川市より牡丹八十本の贈呈がありました。また、この前日には、福島空港国際空港化促進協議会の須賀川市長（会長、長沼・浅川・古殿三町長、玉川・岩瀬両村長ほか関係者が来函し、航路再開について協議がなされました。航路確保のため、道内空港をもつ地の方々も、それぞれ努力して参りたいものと存じます。

今年の弟子屈町川湯での連合会総会には、開催地の皆さまに「苦勞をおかけいたしますが、また健やかにお会いできますよう、ご盛会を期待いたして

おります。
各地県人会の皆さまのご健康とご発展をご祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。

新年のごあいさつ

福島県知事 佐藤 栄佐久



新しい年の初めに当たり、福島県人会北海道連合会の皆様の御多幸を心からお祈り申し上げます。

貴県人会が昭和四十八年の結成以来着実な発展を遂げられ、今日の隆盛をみておりますことは誠に喜ばしいかぎりであり、また、役員をはじめ会員の皆様には、日ごろから、ふるさと福島県に對しまして格別の御支援をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の福島県におきましては、うつくしまねんりんピック二〇〇二の開催や新千円札の肖像画に野口英世博士が選ばれるという嬉しい出来事がありました。

また、全国で初めて水質汚濁の未然防止の視点に立った猪苗代湖・裏磐梯湖沼の水環境保全条例の制定や高速自動

車網の整備など、県勢発展に向けた基盤整備も着実に進展しました。

私は、「人間の尊重」や「環境との共生」など、新しい時代の価値観に基づいた地域づくりを進めることが、当県の特性を生かした個性豊かな県土づくりに結びついてくるものと確信しております。

とりわけ環境問題につきましては、美しい環境を未来の世代へ引き継いでいくために我々は「未来の世代からの信託」ともいべき使命を負っていることを認識するとともに、環境を経済的価値がある資源の一つと考え、「環境資本」としてとらえるという二つの考え方が非常に重要になってくるものと考えております。

なお、昨年の欧州二カ国の視察では、当県の県づくりの方向性の正しさを改めて確認するとともに、多くの重要な示唆を受けました。

今後はこの成果を生かし、ものづくりを尊重する社会の形成や体験・環境共生型観光の振興、国際学術交流ネットワークの構築などに努めてまいりますと考えております。

激しい社会経済情勢ではありますが、今こそ、県民と共に二十一世紀にふさわしい価値観に基づいた地域社会の実現に向けて、一歩ずつ着実に歩みを進めてまいります。

県人会の皆様におかれましては、今

年も、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限りない御発展と、会員の皆様今年一年の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

会員通信

道東地区福島県人会合同観楓会に参加して

美幌町福島県人会

会計監査 打地 健一

美幌峠を越え、阿寒国立公園に観光客が毎日のように走り去り、やっと静寂を取り戻した今日この頃、昨年も帯広県人会担当の第三十回連合会総会、美幌観光和牛祭り、美幌ふるさと祭り出店等、色々な思い出があった。

さてこのたび、道東地区合同観楓会に参加すべく、十一月八日十四時三十分、ホテル送迎バスにて美幌を出発、一路川湯温泉へと向かう。季節は晩秋、木々の紅葉も終わり、道路端の木々はやがてやってくる冬將軍を待っているかのようである。美幌峠から見る屈斜路湖も静かに水面を写している。

バスの中は六戸会長以下十六名、外の寒さなど気にすることなく、和氣

藹々にて笑い声がたえない。和琴半島を通過、遠くシベリヤから飛んで来た白鳥がその白い姿を見せる砂湯を窓外に川湯温泉に秋深しの道路を走る。

十五時三十分、合同観楓会場である川湯温泉ホテルニュー湯の間に到着、別海町、浜中町の県人会の方々と同じく、浴衣に着替え温泉に入る。湯船につかるたび、日頃の疲れ、労苦が消える感じがするのは自分ひとりだけではない。

十八時、いよいよ合同観楓会開始。担当浜中町福島県人会の開催のことばと挨拶、北海道事務所河野所長の祝辞につづいて乾杯、祝宴に入る。

約六十名ほどの県人会員、老齢ではあるが、皆元氣一杯である。料理に舌つつみを打ち、美酒に酔う。余興のカラオケに益々酔いがまわるうち、参加者一同旧知の人達と盃を乾す。この時ほど同県人とはいいいものだと思う。余興最後の締めくくりは、浜中町県人会婦人部の方々の盆踊り、その輪の中に我々も入ったのは言うまでもない。

来年度第三十一回連合会総会も別海浜中両県人会担当にて開催予定とか、今から楽しみである。余興終了後、道東地区観楓会来年度開催県人会挨拶として、我が美幌町県人会長の挨拶につづき、一本締めにてそれぞれの会の発

展を祈った。

二次会はホテル内のスナックにてこられたカラオケを唄い、ダンスをし、親交を深め、時間が過ぎるのも忘れるほどであった。三次会是我々の部屋にてドンチャン騒ぎ、気がつけば夜半を回っているありさま。同県人とはあまり面識がなくても、一堂に集まればそれぞれの故郷のことに話がはずむものであり、本当に楽しい一時が過ぎたと思う。

最後に第二十回道東地区福島県人会合同観楓会を起案実行された浜中町県人会の労をねぎらい、今後も益々の会の発展と来年の連合会総会の成功を祈念して、ペンを置く。

「観楓会」

美幌町県人会 風間 愛子

十一月八日、十五名を乗せた車が、美しい景色を見ながら、一路川湯温泉へと出発しました。砂湯には、沢山の白鳥が飛来して観光客から餌をもらって美味しく食べている様子が見えました。

一時間ぐらいで川湯に着きましたが、観楓会までには少し時間がありましたので、早速宿の浴衣に着替えました。着替えたのは良いが、普段着慣れていないため、帯をどの辺りにして良いのか分からず、男帯のように腰の辺りで締めてみました。しかし、当然胸がは

だけてしまいます。この年齢になると、あまり気にもしないで温泉に行ったり、ビールを飲んだり、売店を見に行ったりして時間を過ごしました。

十八時から浜中会長の挨拶、各会長の挨拶の後、食事をしながら宴会に入りました。歌や踊り、ハーモニカ、皆上手に出来、特にハーモニカには大変感激しました。また、相馬の人に会うと、私も相馬なので身近に思い、次から次へと色々な話が出て時間を忘れるくらいです。最後にみんなで浜中音頭を踊って、楽しい一日が終わりました。これからは、日一日と寒くなりますので、身体に十分気を付けて過ごしてください。今度、美幌でお会い出来ることを楽しみにお待ちしております。



札幌福島県人会創立八十五周年
記念観楓会の実施について

札幌県人会 顧問 宗像 槍勇

札幌福島県人会の歴史を振り返り返りま
すと、徳川幕府時代の北方警備の大征
と、戊辰戦争後の北海道開拓の為の入
植等と、その関係性は極めて深く、大
変な労苦の上に輝かしい足跡を残され
てきました。

その先人達が辛い毎日の中から、故
郷の山河を思い、互いに励ましあい、
語りあいながら明日の希望に向つての
活力を得るため、有志が集いあい、大
正六年に現在の県人会を創立されたと
聞いております。

それから早くも八十五年という長い
年月を経て、何度かの世代交代がなさ
れて参りましたが、何らかの区切りを
つける意味から、創立八十五周年記念
式典と祝賀会を計画してはとの提案が
あり、実行委員会をつくつて、平成十
四年度総会までに検討することになり
ました。

実施具体案について、その規模・内
容・資金面その他についての他の県人
会における実施結果等も参考に慎重に
検討を重ねて参りました。

その結果、記念式典として祝賀会も
併せて実施する場合、その規模を最低
とした場合でも対外的にも恥ずかしく
ないものとするためには、相当の資金

を必要とし、現在の県人会の財政状況
からは到底無理であることが確認され
ました。

しかし、何らかの区切りをつける必
要は認めることとし、年会費の中で出
来る事を検討することとなり、本格的
な記念式典は九十周年又は百周年等の
大きな区切りを目的に、資金の積立等
ある程度時間をかけて検討する必要が
あるとの結論に達しました。

以上の経過から、今年度に予定して
いた事業の秋季観楓会に併せて八十五
周年記念式典を実施することになりま
した。実施内容については時期・場所・
内容等について、実行委員会で種々検
討した結果、温泉地で一泊無料で下記
のとおり実施することになりました。

日 時 平成十四年十月六日(日)
〜十月七日(月)

場 所 定山溪温泉「ホテル鹿の湯」

参加費 無料

記念式典次第

開会の挨拶

物故者黙祷

会長挨拶

来賓挨拶

記念撮影

懇親会

参加者は三十七名と予定より少ない
人数ではありましたが、一泊の観楓会
は初めての試みでもあり、極めて和や
かな雰囲気の中で懇親会も終わり、そ

れぞれ故郷の思い出、日頃の情報交換
と、有意義な一時を過ごすことが出来
たと思います。

これを機会に札幌県人会が益々発展
し、百周年、二百周年を目標にがんば
りたいと思います。



新会員紹介

帯広県人会

渡辺 マツ代

常葉町

函館県人会

渡辺 則子

郡山市

苫小牧県人会

前田 政和

白河市

前田 清子

白河市

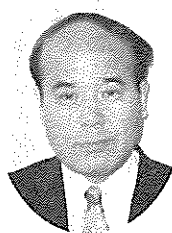
若林 寅一

三島町

OBの便り

「お元気ですか」福島県人会の
皆様へ

第十二代 所長 飯 武勝



福島県人会の皆様、お元気でお過ご
しのことと、皆様への心の故郷福島の地
から拝察いたします。

私は平成六年四月から九年三月まで
の三年間勤務し、皆さまには大変お世

話になりました。

当時の事務所の主なる仕事は、今も変わらないとは思いますが、福島空港利活用の拡大を兼ねての観光、物産のPR、桃や冬野菜等県産青果物の道内販売の拡大及び県人会活動支援などでありました。

福島空港の開港が平成五年三月であり、当時は開港間もないこともあり、福島・札幌便の利用客は増加の一途加えて福島・帯広・函館便も新たに加入した時期でもあり、福島空港利活用促進協議会の方々と帯広、函館市役所や商工会議所等の関係機関を訪問し、利用拡大のPRを行いました。

当時の県人会連合会長梅津さん(旭川県人会)と「次は旭川空港に飛ばすよう働きかけましょう」などと意気込んでいたことが思い出されます。

このような時期でもあったことから、道内各地での物産展・観光キャンペーンにも職員みんなが力が入っておりました。昨今、帯広、函館便が相次いで廃止されたことは寂しい限りであります。

県人会組織は年々高齢化が進み、新陳代謝(?)が遅れ、会員の減少が見られたものの、標茶町の酪農家小林さん(原町市出身)のお骨折りもあり、新たに標茶県人会が加入されたのもこの時期でありました。

連合会の総会は地元県人会にお世話

になり、旭川、稚内、帯広で開催しました。

このような北海道での三年間のできごとがつい昨日のように思い出される今日この頃であります。

福島に戻った後は、会津農政事務所に二年、県庁畜産課に二年勤務の後、三十六年の県庁生活を終え昨年三月退職しました。

私は畜産技術職であったこともあり、第二の職場はJAF福島経済連(畜産部)にお世話になっております。成人病検診で異常指摘事項なし、体調はすこぶる順調、本来の酪農事業推進やBSE対策で県内を毎日駆け廻っております。

去る十一月二十二日「北海道事務所五十周年記念の集い」で県人会の皆様と久しぶりにお会いし、思い出話に花が咲き、次は母県訪問でお会いできることを約束して皆様とお別れしました。

福島県人会北海道連合会員皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます、拙い筆を擱かせていただきます。



「うつくしまねりんピック2002」成功のうちに終了

高齢者を中心とするスポーツ・文

化・健康・福祉等の総合的祭典である第十五回全国健康福祉祭ふくしま大会が、平成十四年十月十九日から二十一日までの四日間にわたり、県内二十四市町村を会場に開催されました。

全国から約九千人の選手・役員(北海道からは約百四十人)が参加され、福島県の美しく豊かな自然に囲まれた会場を舞台に、交流の輪を広げていただきました。なお、大会期間中の延べ

参加者数は五十一万人でした。

福島県人会会員の皆様の御支援、御協力に心から感謝申し上げます。

新任職員自己紹介

川俣 基



四月から北海道事務所勤務となった川俣基(かわまた もと)と申します。出身地は川俣町ではなく会津若松市で、三月まではいわき地方振興局県税部に勤務しておりました。

福島では春の訪れを告げる三月末に新千歳空港に降り立った際、自分の吐く息が白かったのを見て、「いよいよ北海道での生活が始まるんだなあ」と一人感慨に耽ったことを思い出します。

(北海道にはそれまで旅行でも来たことがなかったのです。)

北海道には親類・友人もまったくいなかったことから、生活するうえで多少の不安はありますが、仕事、そして私生活においてもあらゆる見聞を広げて、福島県と北海道の架け橋の一翼となるべく努力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

編集後記

不況の嵐、倒産など暗い話題が多い中で、今年も、新千円札の選ばれた野口博士のような明るい話題がとんとん続くといいですね。

皆様の御多幸をお祈りします。(河野)

北海道で迎える新春も三度目。そろそろ「遠島御赦免」の準備を進めてもいいのかなあ。

でも、北海道は本当にいいところ。多くの方々にこの感慨を味わっていただきたいものです。(高田)

今冬は、インフルエンザが流行すると予測されています。

発症から48時間以内であれば、ウイルスの増殖を抑える薬が処方されるようになったそうなので、熱が出たら早めの診察を！(竹林)

昨年と同じようなことを書きましたが、平成14年も十大ニュースの上位には暗い話題が多かったようです。今年こそは明るい話題が並ぶことを願っております。(酒井)